

利 水

[無加川流域の発展を支えます。]

無加川の水利用は、水道用水、工業用水及びかんがい用水として利用されています。知事管理区間では、4件が利用されています。なお、これまでに渇水被害が生じた事例はありません。

[訓子府川流域の発展を支えます。]

訓子府川の水利用は、かんがい用水として利用されています。知事管理区間では、9件が利用されています。なお、これまでに渇水被害が生じた事例はありません。

[パンケビバウシ川]

パンケビバウシ川の北海道管理区間では水利用はされていません。

河川環境

豊かな河川環境を整備・保全し、流域の皆さんに親しまれる川づくりを進めます。

近年、河川環境は、動植物の生態系を保全する上で貴重な自然空間であり、また、地域住民の憩いの場であることなどから、河川環境に対する地域社会のニーズが高まっています。その背景を踏まえ、常呂川圏域においては、現在の河川環境を極力保全し、また、必要に応じて整備を行うなど、流域の皆様が親しまれる川づくりを進めていきます。



重要種チドリケマン

[無加川流域で見られる動物や植物]

無加川上流域は、山地が大部分を占め、エゾマツ、トドマツ等の針葉樹林が分布しています。河岸には、水際までヤナギ類、ミズナラ、エゾイタヤ等からなる河畔林に覆われています。河床勾配は1/45程度で、比較的大きな礫や玉石の溪流には適度な落差と冷涼な地域を好むオショロコマが生息し、淵の底にはハナカジカ等が生息しています。

中流域は、ヤナギ類やミズナラ等で形成される河畔林が連続して分布しています。河床勾配は1/200から1/100程度で、河床は砂礫及び礫で、瀬と淵が明確な場所を生息環境としているサクラマス（ヤマメ）やエゾウグイが生息し、浮き石になっている河床は生息する魚類の産卵の場となっています。また、それらを捕食しようとするカワセミや水生昆虫を捕らえるカワガラス等が生息しています。

なお、温根湯温泉付近は、川がせせらぎ、緑と一帯となった良好な景観を呈し、観光客の散策ルートや地域住民の憩いの場として利用されており、重要な観光資源の一つに位置づけられています。

下流域は、河床勾配1/300から1/200の比較的穏やかな流れとなっており、河床は砂礫、礫等となっています。

河道周辺はヤナギ類、ドロノキ等の河畔林が分布し、オシドリ等鳥類が生息しています。また、河床にはスナヤツメ、フクドジョウ等の魚類が生息しています。



無加川 上流の環境



無加川 下流の環境

[パンケビバウシ川流域で見られる動物や植物]

パンケビバウシ川上流域では、山地が大部分を占め、エゾイタヤーシナノキ群落や落葉針葉樹植林が分布しています。河床勾配は1/45以上の急な流れとなっており、河床は砂礫となっています。

中流域は河床勾配が1/190から1/70程度となっており、大部分が農耕地（畑）となっています。シラカンバ林、ヤナギ林やクサヨシ群落のほか、下流部の右岸側にはハルニシ林が成立しており、林内には重要種のチドリケマンやエゾミズタマソウが生育しています。早瀬や平瀬が多いことから調査地点全域にフクドジョウが多数見られます。

下流域は河床勾配が1/250から1/160程度で、中上流に比べ緩やかな流れとなっています。ヤナギ林やオオヨモギ・オオイタドリ群落が成立しており、重要種のアカンカサスゲが生育しています。早瀬の環境にはフクドジョウ、ハナカジカが見られ、落差工下の淵から下流の瀬の河岸部にかけては、サクラマス（ヤマメ）が見られました。



つつじ橋から下流



ハナカジカ

[訓子府川流域で見られる動物や植物]

訓子府川上流域は、山地が大部分を占め、エゾマツ、トドマツ等の針葉樹林が分布している。河岸には、水際までヤナギ類、ミズナラ、エゾイタヤ等からなる河畔林に覆われている。河床勾配は1/145程度で、河床低下に伴い単調な流れとなっており、露岩が見られる。

中流域は、右岸側は丘陵地から続く山付き林の河畔林が連続して分布している。左岸側では畑作が営まれており河道沿いにはヤナギ高木林やクサヨシ等の草地が広がっている。河床勾配は1/160程度となっている。河床は砂礫及び礫で、瀬と淵が明確な場所を生息環境としているシベリアヤツメやハナカジカが生息している。

下流域は、河床勾配1/180程度と比較的穏やかな流れとなっており、河床は砂礫、礫等となっており、常呂川との合流点付近にはヤマメ（サクラマス）が生息している。周辺は、北見市街地を形成する住宅街となっており、所々に畑地が見られる。河道内にはクサヨシ、オオヨモギ等が分布し、アカンカサスゲも生息している。



中央橋から下流



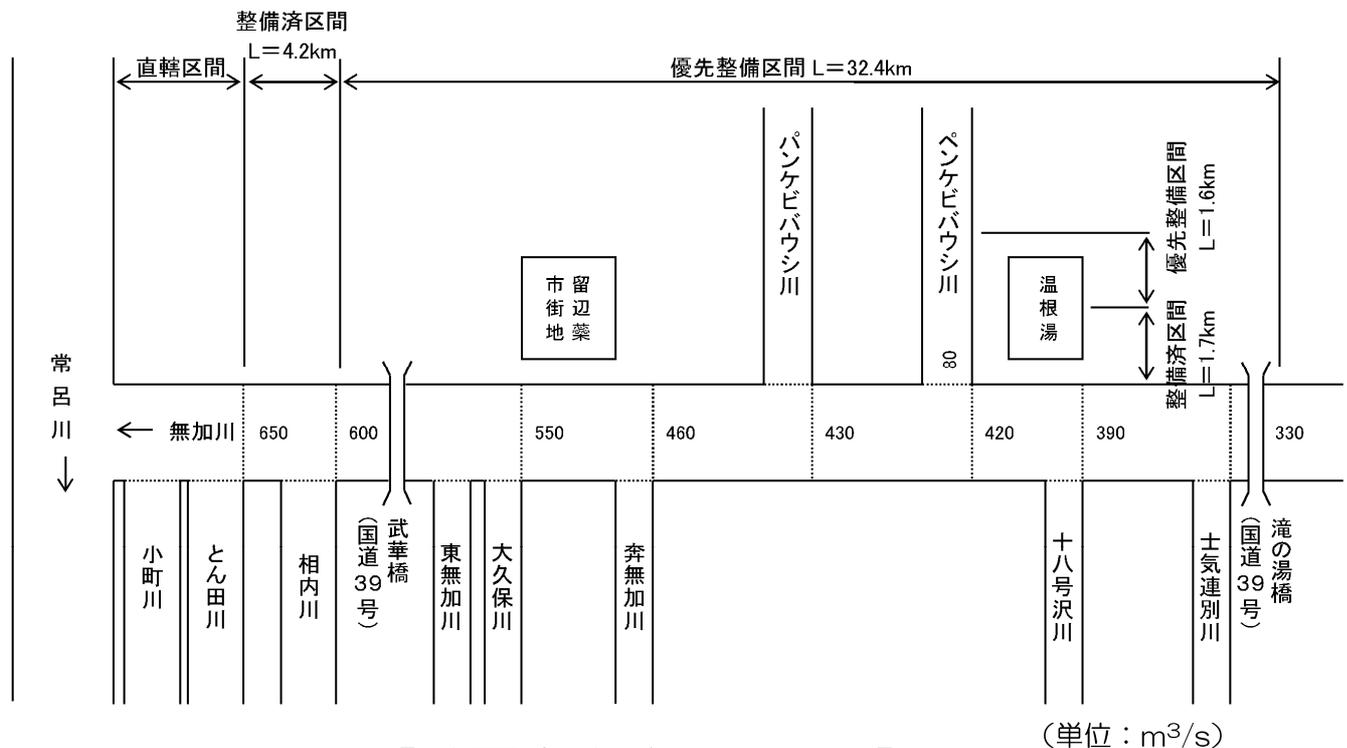
シベリアヤツメ

無加川の川づくりについて

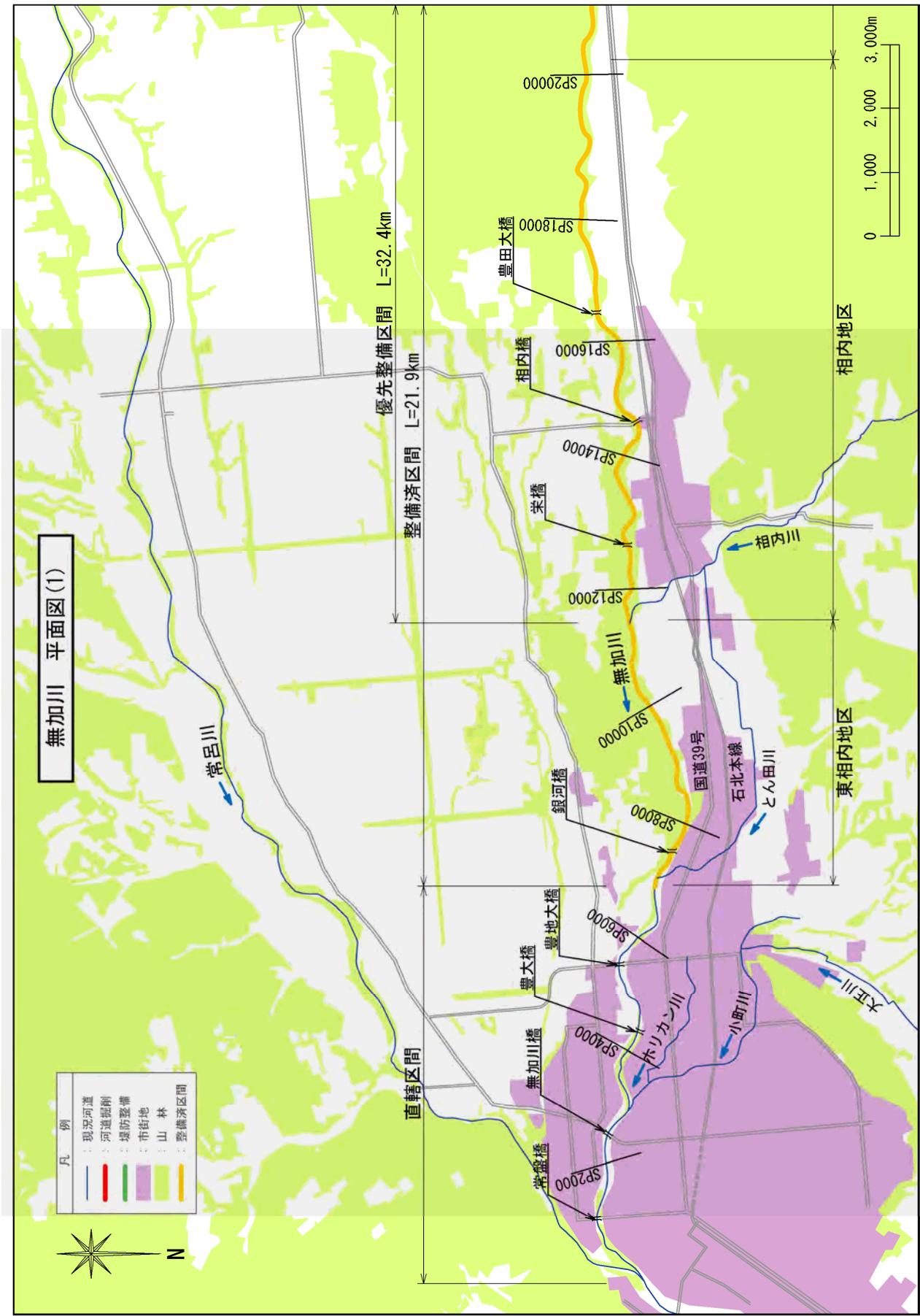
無加川の川づくりを進めるに当たり、次の2点について計画（案）を定めました。

(1) 河道改修計画

無加川は、流域に留辺薬市街地、温根湯温泉等の資産集中区域や農業地帯を含んでいることから、社会的・経済的な重要性、想定される被害の大きさを踏まえるとともに、下流直轄区間との整合を図り、相内川合流点から滝の湯橋上流までの32.4km区間において、昭和37年8月に発生した洪水を踏まえ、沿川地域の市街地や農地への水害を防止することを目的に整備を進めます。



【計画高水流量配分図】



【無加川平面図①】



無加川 平面図(2)

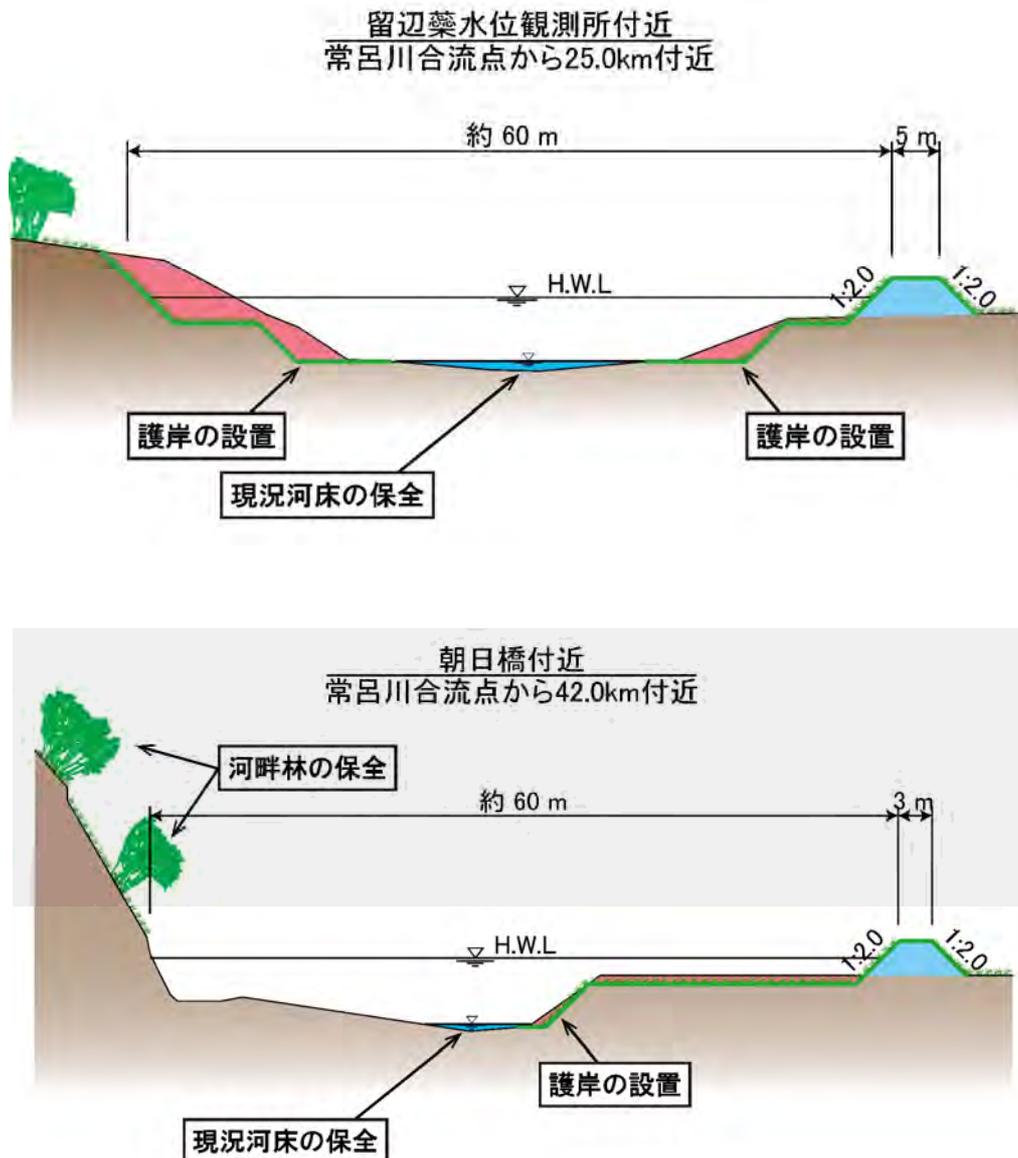
【無加川平面図②】

(2) 河川環境に配慮した川づくり

河川利用の現況、河川環境の保全に配慮し、みなさんの意見を聞きながら無加川流域の特色を生かした川づくりを行います。

河川整備は、特に以下の点に配慮しています。

- ◆現存の河畔林や現況河岸・河床、瀬・淵構造の保全を行い、動植物や魚類の生息・生育環境の保全に努めます。
- ◆自然な滞筋を創出するとともに、支川の合流部を含む河川の縦断的な連続性を確保し、多様な流れを創出します。



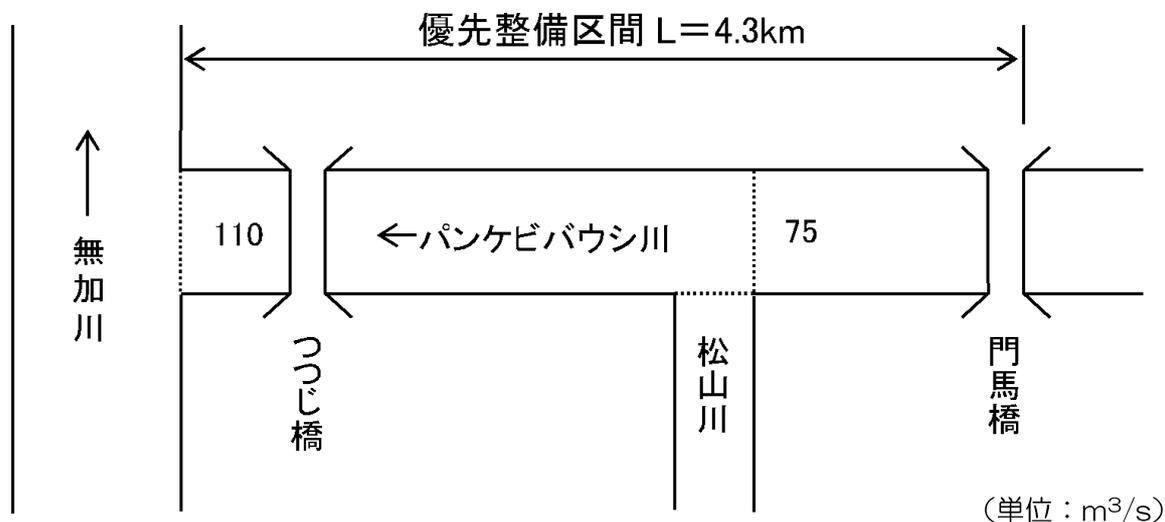
河川整備イメージ横断図（無加川）

パンケビバウシ川の川づくりについて

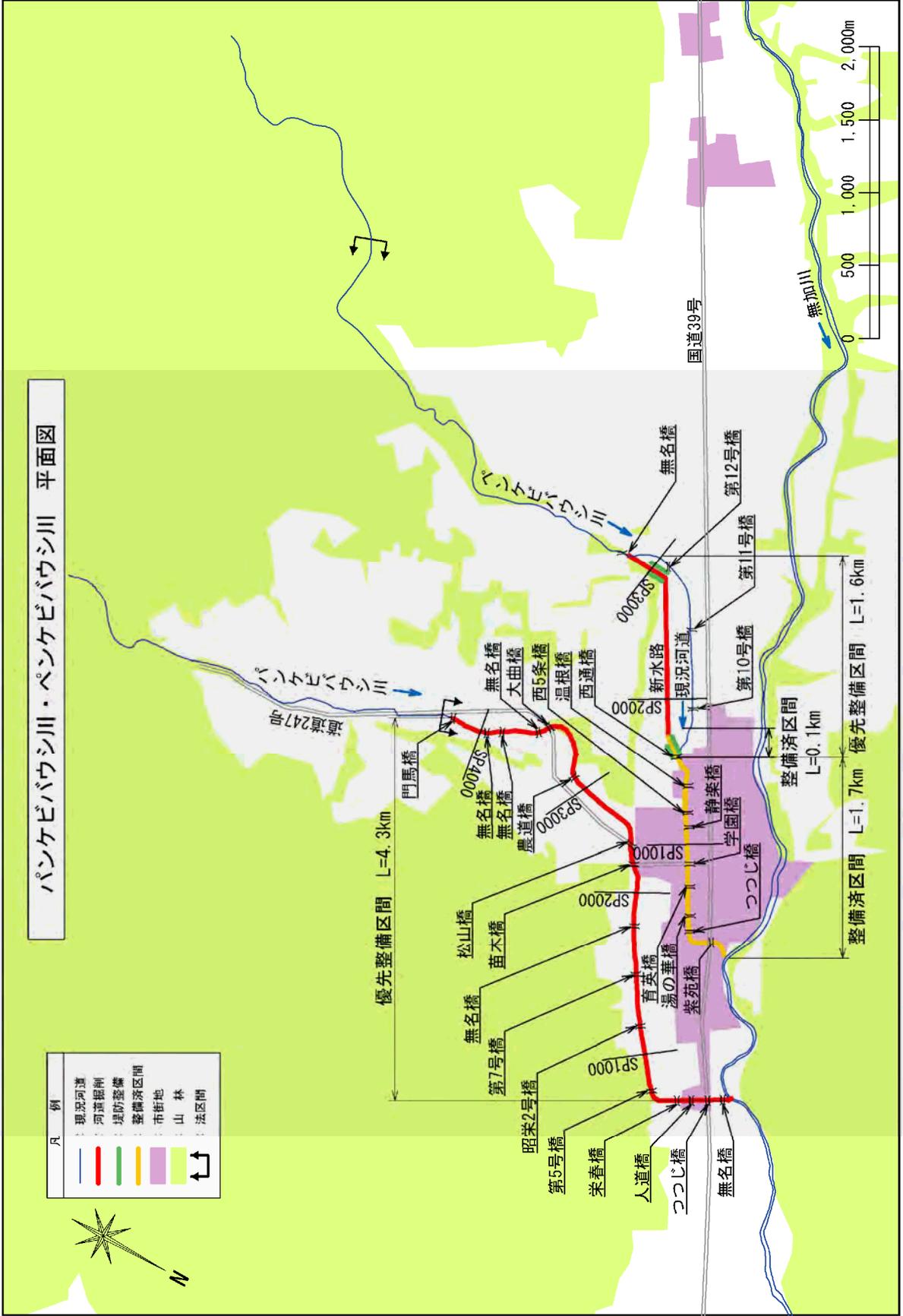
パンケビバウシ川の川づくりを進めるに当たり、次の2点について計画(案)を定めました。

(1) 河道改修計画

パンケビバウシ川では、早期に治水安全度を確保するため、無加川合流地点から門馬橋までの4.3km区間で、沿線地域の農地の水害を防止することを目的に整備を進めます。



【計画高水流量配分図】



パンケビバウシ川・パンケビバウシ川 平面図

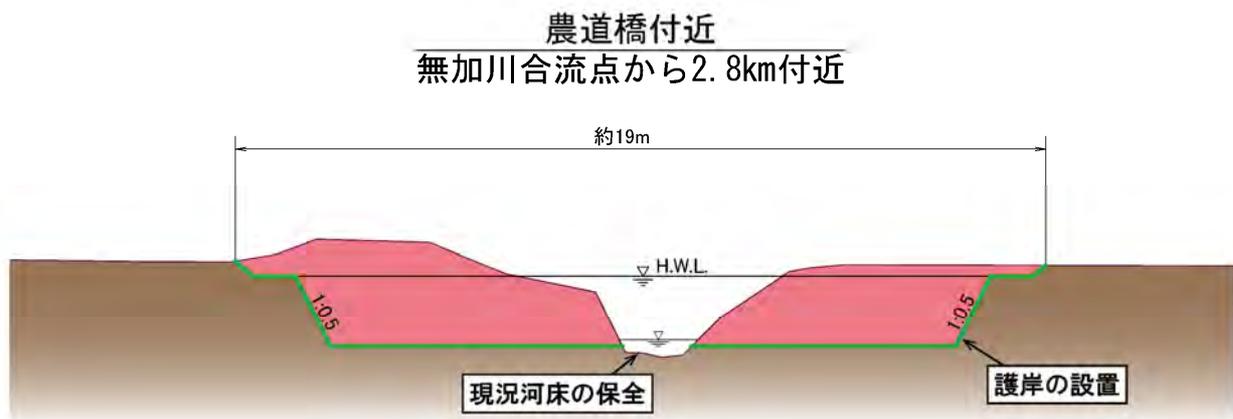
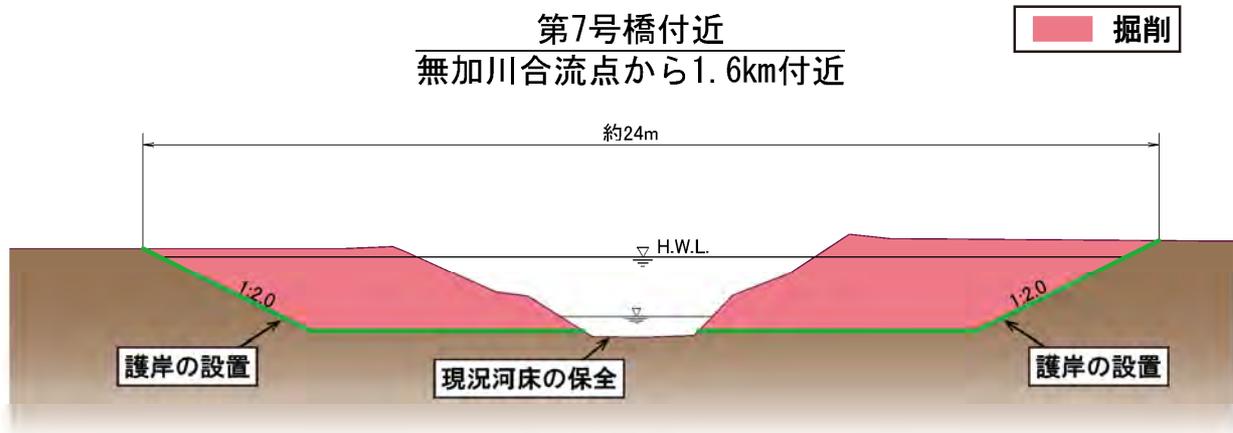
【パンケビバウシ川平面図】

(2) 河川環境に配慮した川づくり

河川利用の現況、河川環境の保全に配慮し、みなさんの意見を聞きながらパンケビバウシ川流域の特色を生かした川づくりを行います。

河川整備は、特に以下の点に配慮しています。

- ◆現存の河畔林や現況河岸・河床、瀬・淵構造の保全を行い、動植物や魚類の生息・生育環境の保全に努めます。
- ◆自然な滞筋を創出するとともに、支川の合流部を含む河川の縦断的な連続性を確保し、多様な流れを創出します。



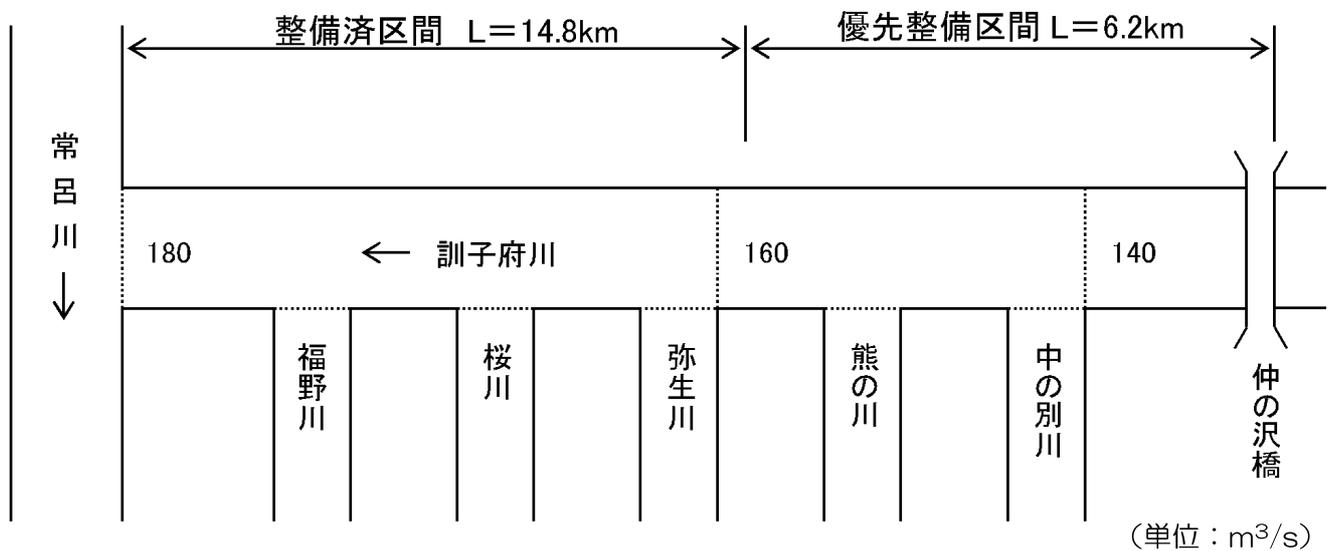
河川整備イメージ横断図（パンケビバウシ川）

訓子府川の川づくりについて

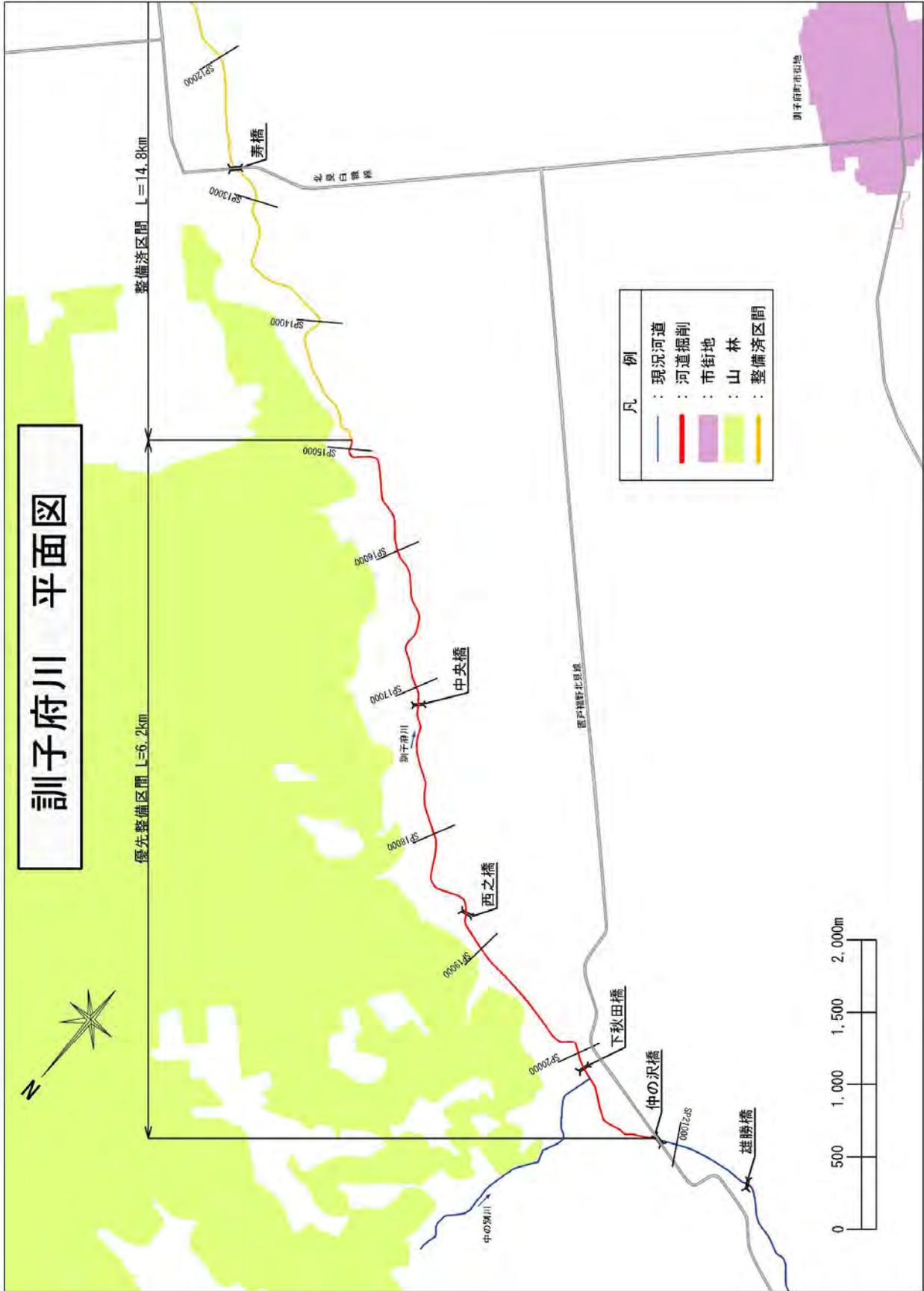
訓子府川の川づくりを進めるに当たり、次の2点について計画（案）を定めました。

（1）河道改修計画

訓子府川においては、早期に治水安全度を確保するため、弥生頭首工から仲の沢橋までの6.2km区間で、沿川地域の農地の水害を防止することを目的に整備を進めます。



【計画高水流量配分図】



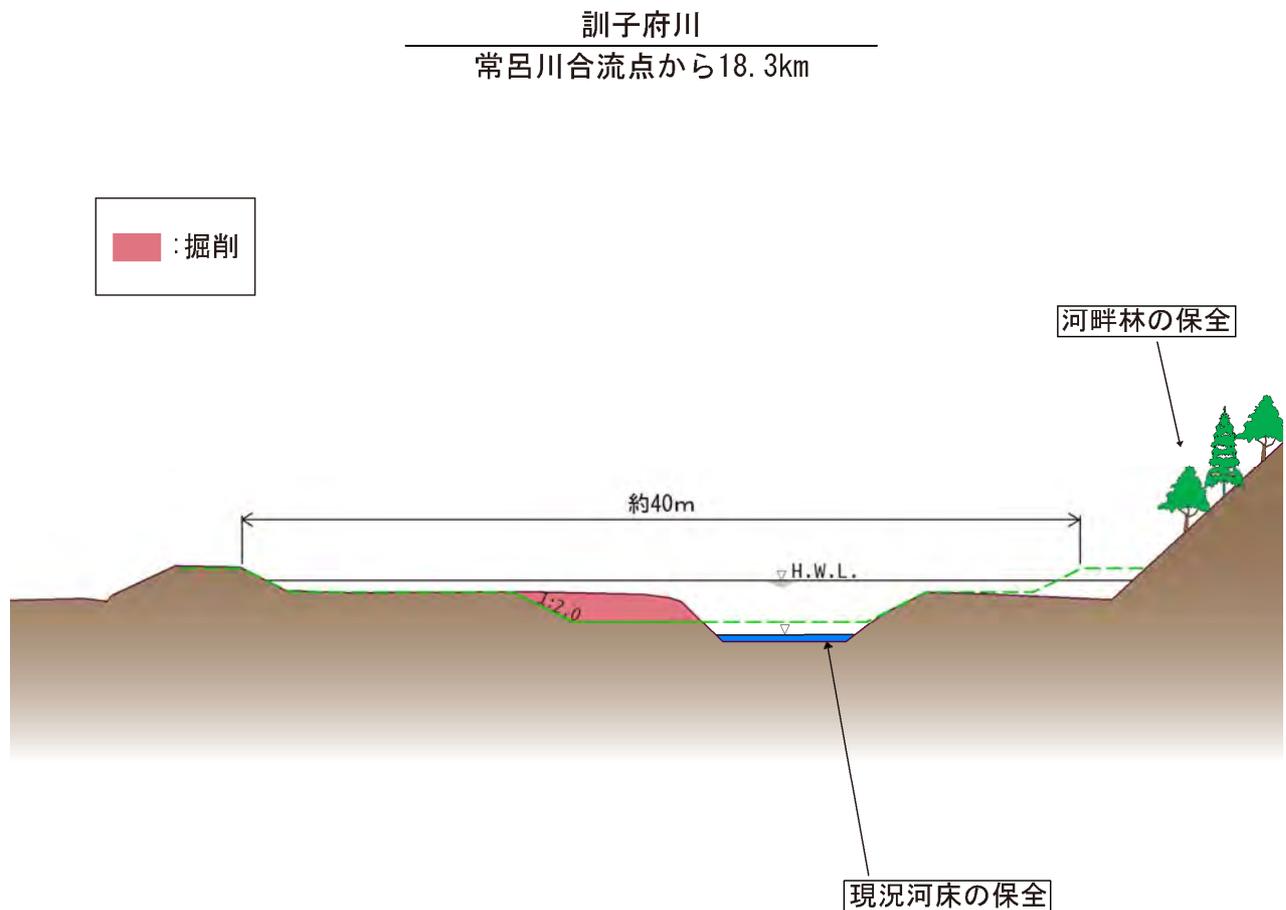
【訓子府川平面図】

(2) 河川環境に配慮した川づくり

河川利用の現況、河川環境の保全に配慮し、みなさんの意見を聞きながら訓子府川流域の特色を生かした川づくりを行います。

河川整備は、特に以下の点に配慮しています。

- ◆現存の河畔林や現況河岸・河床、瀬・淵構造の保全を行い、動植物や魚類の生息・生育環境の保全に努めます。
- ◆自然な滯筋を創出するとともに、支川の合流部を含む河川の縦断的な連続性を確保し、多様な流れを創出します。



河川整備イメージ横断図（訓子府川）

河川の維持管理

河川の維持管理は、地域の特性を踏まえつつ、災害発生防止、河川の適正な利用、流水の正常な機能の維持、河川環境の整備と保全等、総合的な観点から適切な実施に努めます。

- ア. 河川の巡視及び点検
- イ. 流下能力の維持
- ウ. 河床の維持
- エ. 伐採及び除草
- オ. 護岸・堤防の維持
- カ. 構造物の維持管理

河川情報の提供、および 地域や関係機関との連携

以下の点について、地域や関係機関と連携し、適切な河川管理に努めます。

- ①河川愛護思想の普及
- ②防災・減災対策を推進
- ③雨量・水位情報の提供・共有
- ④水防活動の支援
- ⑤河川事業に関する情報提供
- ⑥環境教育の場の提供
- ⑦水文観測の実施
- ⑧河川環境の調査・研究